

放送日： 平成 20 年 6 月 16 日

タイトル： 子宮筋腫

担当者： 医師 木下 幹久

皆さん、こんにちは。私は公立甲賀病院産婦人科顧問の 木下 と申します。
本日は 子宮筋腫 について簡単にお話いたします。

子宮は平滑筋と言う筋肉で出来ています。この平滑筋の良性の癌、つまり平滑筋の良性腫瘍を子宮筋腫と言います。筋腫の『腫』は『腫瘍』の『シュ』です。

子宮筋腫は女性が4～5 人も集まればその中の一人は筋腫を持っているといわれるほどに最もありふれた婦人科の疾患の一つです。

また、子宮筋腫は良性で、命に関わるようなことは先ずありませんが、余り長い間放置しておくといつの間にか『筋肉腫』という悪性の腫瘍に変化していることもありますから、定期的な診察は受けておいたほうがよいでしょう。特に、急に大きくなったり、MRI のような画像診断で筋腫の中に出血していることが推測されるような場合は要注意です。

筋腫の代表的な症状は 月経痛 過多月経、そのために起こる貧血 などですが、赤ちゃんが欲しい方にとっては不妊症の原因となることもあります。筋腫の大きさや出来ている場所によっては膀胱が圧迫されるためにおしっこが近くなったり、おしっこをしようと思っても出なくなったり、直腸が圧迫されて便秘することもあります。また、お腹を触ると硬いモノ、つまり、筋腫を触れることもあります。

子宮筋腫はそれがあからとって必ずしも治療を必要とするものではなくて、症状の深刻さの程度や大きさなどで治療が必要かどうかを判断します。治療しなければ日常生活の質がひどく損なわれたり、健康に明らかに良くない状態、例えば月経のときに毎回痛みで仕事を休んだり、寝込んだり、痛み止めを沢山飲まなければならない、貧血がひどくてしんどい、おしっこが近くて叶わない、おしっこが出難い、便秘がひどい、お腹が張って仕方ない、などと言った状態の方は治療を受けたほうがよいでしょう。

治療法には色々なものがありますが、大きく分けると薬による治療、手術、その他特殊な治療とに分けられます。色々な治療方法の中で子宮筋腫を100%確実に治療出来る方法は手術、それも子宮ごと全部とるという方法しかありません。その他の治療法は手術にしる、お薬にしる、特殊な治療法にしる、治療後の再発や再燃がほぼ確実に起こる、ないしは起こる可能性があると考えて下さい。

先ずお薬による治療法ですが、筋腫は放って置いて生理痛などの痛みだけを軽くするといった対症療法は此処では除外します。では、どんな治療法があるかと申しますと、本来子宮内膜症と言う疾患に使われているお薬が、筋腫を小さくする作用もあるということで、筋腫を小さくし、それによって症状を軽くしようという目的で盛んに使われるようになりました。これは長くて原則 6 ヶ月までしか使用できません。その後、治療終了後筋腫が元の大きさに戻り、症状もぶり返すのはほぼ確実です。また、気をつけなければならないのは、筋腫の出来ている場所によっては、このお薬を使うことによって大量の出血を引き起こすことがあるということです。運よく、そのまま閉経して筋腫の大きさも症状も逆戻りしなくて済むということもあることから、『逃げ込み療法』と言って治療後に閉経する可能性のある年齢の女性には試されることがあります。また、筋腫の『治療』とはいえませんが、手術は受けることになったけど、手術予定が数3 ヶ月先でそれまでの間、生理痛を我慢しなければならない、過多月経で貧血がひどくなりそう・・・とか、余りに大きな筋腫で手術が難しくなることが予想されるなどと言った場合などもこのお薬が使われることがあります。

手術は冒頭申しました子宮ごと全部とる手術と、筋腫だけ取って子宮本体は残す手術とがあります。更に、お腹を開ける手術、シモの方から経腔的にお子なる手術、腹腔鏡で行う手術などがあります。本日は時間の関係で詳しいことまでお話できませんが、誰でもどんな方法でも出来るというわけではなく、それぞれ

の条件によって使い分ける方法があります。

特殊な方法としては、子宮に栄養を送っている血管を詰まらせて筋腫を殺してしまう子宮動脈塞療法という治療法がありますが、まだその効果に対する評価も定まっておらず、現在のところ保健適応外の治療法です。

以上、駆け足で子宮筋腫のお話を致しました。ありふれた疾患で闇雲に心配する必要はありませんが、かと言って甘く見ると大変なことになる可能性を秘めた疾患です。子宮癌検診と兼ねてでもいいですから、定期的な検診を是非受けて下さい。